



勇壮に！整然と！ 海上歓迎パレード



JF大分

水産おおいた

発行元
大分県漁協

<http://www.jf-oita.or.jp/>

来年の11月10日に本県で開催される「第43回全国豊かな海づくり大会」の1年前プレイベント「おおいた海博」が4日、別府国際観光港で開催された。式典、海上パレードや放流が、本番の手順を確認しながら整然と行われた。

当漁協は、特産水産物の試食、販売や子どもらを対象に魚のつかみ取りなどのイベントを行い、大会に向け県民の皆さんの機運醸成に努めた。



(上) 壇上で紹介される中根組合理長 (下左から) 佐藤知事、岩屋代議士、長野市長、坂部長

式典行事では、主催者を代表して佐藤樹一郎大分県知事が「水産物の消費拡大やプラごみ対策などに県民総参加で取り組み、大分の豊かな海を次世代に繋げる」と挨拶。地元別府市の長野恭紘市長が歓迎の挨拶、来賓の岩屋毅代議士と坂康之水産庁増殖推進部長が祝辞を述べた。

2 面 県信と協定



第5回 日出魚市場 感謝祭

3 面 韓国出荷試験



ロケット協議

4 面 瀬戸内特措法 50周年

祝受章・表彰

漁済県事務所に
鳴海運営委員長

見舞金御礼

5 面 理事会等開催 海区漁調委

6 面 水研だより



ステージでは「めじろんコンストラクション」と「大会ロゴマーク」が紹介され、大分高校書道部の皆さんのパフォーマンスで大会テーマの披露目が行われた。
次いで岸壁に移動し、海上歓迎・放流行事が行われた。
(次ページに続く)



豊かな海づくりに向け 包括連携協定を締結



県漁協は2日、県信用組合と包括連携協定を締結した。来年11月10日に開催される「第43回全国豊かな海づくり大会」の成功と大会を契機とした水産業の活性化に向け、連携協力を行う。

調印式は、県農林水産部の佐藤章部長の立会いのもと、県信本店(大分市中島西)で行われ、県信の吉野一彦理事長と県漁協の中根隆文組合長が署名した。

協定の内容は、大会に向けた広報・宣伝と県民機運の醸成に加え、大会を契機とした県水産情報等の発信、県産水産物の消費拡大と県水産業の振興・発展を図るための水産関係者への支援。

中根組合長は「同じ組合員組織で成り立つ相互扶助の県信とJFおおいだが、大会を契機に連携し、事業推進を行えることは大変喜ばしい」と挨拶した。

海上歓迎行事では、本県を代表する漁船など10隻による漁法紹介パレード、安岐、杵築、日出、別府及び大分の5支店に所属する46隻による漁船団パレードが行われた。
放流行事では、主たる栽培魚種であるマコガレイとマダイの稚魚を、関係者約200名が別府湾に放した。



引き続きステージプログラムとして、馬場子供神楽による「貴見城」の披露、KEIKO&マーク・パンサー(globe)のスペシャルトークショー、別府翔青高等学校による吹奏楽の演奏、さかなクンのスペシャルトークショーが行われ、多くの観客で賑わった。



会場内には希少生物などを展示する「企画展示・体験ブース」、おさかなの絵画コンテスト入賞作品などが出展する「海博ラボ」、漁協支店などが出展する「飲食・物販ブース」が設けられたほか、「魚のかみ取り」を実施。小学生がブリとシマアジを追いかけ、楽しいひと時を過ごした。



「飲食・物販ブース」では、別府溝部学園短期大学による海鮮つみれ汁の配布ブランドおおいた輸出促進協議会による養殖クロマグロの無料試食も行われ、行列ができた。
移動式寿司トレーラー「すし寅」やキッチンカーも出店し、家族連れらが秋晴れの会場を楽しんだ。



豊かな海づくり大分大会への機運醸成を 日出魚市場 感謝祭を開催

11日、県漁協日出支店の大神魚市場で第5回感謝祭が開催された。地域の皆さんに水産業に親しんでもらい、全国豊かな海づくり大会の機運情勢を図ることが目的。
恒例の朝市のほか、小学生を対象とした「お魚つかみ取り大会」やミニライブショーなども行われ会場は多くの地域住民らで賑わった。

韓国出荷試験 養ブリ活魚

韓国への養ブリの活魚出荷を目指し、15～17日に流通実態、試験輸送の着荷状況を調査し、輸出入見通しについて商談を行った。

参加者は、県から漁業管理課の片野主幹、ブランド推進課の三吉主幹、県漁協から新川参事、高橋部長、山口課長補佐、そして伊東水産の伊藤社長らにも同行をいただいた。

韓国への活魚の物流は、活漁船の場合も活魚車で統営、仁川を経由しソウル等の大消費地に送られる。今回の試験は、大分を活魚車で発ち、下関、釜山のフェリーを使用した。

ソウルの鷺梁津水産市場への到着は大幅に遅れたが、試験魚を捌きながら評価の聞き取りを行ったところ、体表の美しさと脂



試験輸送した養ブリをさばき求評



流通実態を調べる参加者

の乗りについては申し分ないとのことであったが、日本での通常サイズ(4kg以上)はやはり小さいとの評価となった。日本の職人に比べ捌き方が荒いこと、あらは使わないことも解り、食べ方の提案も必要と感じられる。今シーズンの養ブリ輸出の見通しは前年並み、年明けから本格化する見込み。関係者はALPS処理水を問題としていないが、マスコミの心無い報道は気がかりとのこと。韓国は重要な輸出入先国であり、継続した販促、提案が必要だ。

未来につながる養殖環境創生へ！

第2回入津地区養殖振興検討委員会

入津地区における安定的な養殖生産を確保するため、6日県南部振興局において第2回委員会を開催。県水産振興課が事業内容を説明し、行政、生産者及び漁協が協議した。

①カキ養殖・排水処理マット

【事業期間】5～7年度 【事業予算】6,000千円
【負担割合】県、市、漁協各1/3 【実施主体】漁協
【事業概要】入津湾の漁場環境改善のために行うカキ養殖と陸上養殖排水処理用マットの設置に助成

②定層設置型監視装置

【事業期間】5～7年度 【事業予算】10,000千円
【負担割合】県全額 【実施主体】県(水産研究部)
【事業概要】5年度、入津碗に定層設置型監視装置2基追加設置し、湾内環境モニタリングを強化

③湾内漁場改善及び沖合波浪対策シミュレーション

【事業期間】5年度 【事業予算】15,000千円
【負担割合】県全額 【実施主体】県(コンサル委託)
【事業概要】ヘドロ堆積実態調査～環境改善方針検討、波浪調査～沖合漁場開発方針(浮沈式生簀)検討

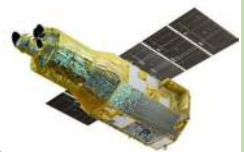
④産地出荷基地形成のための体制強化

【事業期間】5年度 【事業予算】50,000千円
【負担割合】国1/2、県、市、漁協各1/6 【実施主体】漁協
【事業概要】蒲江加工場の荷受け施設の整備に助成

養殖業者等から、飼料や燃油の高騰と魚価の下落により厳しさを増す養魚経営に対する支援を求める声があり、県からコストアップに見合った価格形成に向け漁協と協議・連携する旨の回答があった。

H-IIA47号機打ち上げ成功

ロケット事前協議を実施



XRISM衛星



SLIM衛星

16日、県水産会館において本年度第2回のロケット打ち上げに関する事前協議が行われた。まず、本年度上期の実績として、9月7日に種子島宇宙センターからH-IIAロケット47号機の打ち上げに成功し、搭載されていたX線分光撮影衛星(XR

ISIM)は本格観測に向け準備を進め、小型月着陸実証機(SLIM)は12月に月周回軌道に到着し、1月に月着陸を目指すことが報告された。次いで、本年3月のH3ロケット試験機1号機の打ち上げ失敗の技術的検証結果について説明

があり、H-IIAロケット47号機に対策を施して妥当性を確認したとの報告があった。今後の打ち上げ計画については、来年2月8日にH3ロケット試験機2号機、6月30日に先進レーダ衛星「だいち4号」(ALOS-4)を搭載したH3ロケット試験機3号機を予定するほか、6年度には種子島宇宙センターから全5機、内之浦宇宙空間観測から全3機を予定している旨説明があり、異議なく承認された。



優秀賞を受賞した大分県立海洋科学高等学校

瀬戸内海環境保全特別措置法 制定50周年記念式典

環境省、瀬戸内海環境保全知事・市長会議及び瀬戸内海環境保全協会は12日、神戸国際会議場(神戸市中央区)において「瀬戸内海環境保全特別措置法制定50周年記念式典」を開催した。豊かで美しい里海としての瀬戸内海の重要性を認識し、景観、文化、食など豊富な地域資源を有する瀬戸内海の魅力を広く発信することが目的。

第1部は瀬戸内海関係府県の高校21校によるポスターセッションが行われた。本県の県立海洋科学高は、「食品コースが取り組む海洋環境問題・ブダイを美味しく食べて藻場を増やそう」をテーマに、藻場減少の原因となるブダイを缶詰として有効活用して高評価を得た事例を発表し、優秀賞に輝いた。

第2部では、4チームの大学生による「瀬戸内未来ビジョン」の提言を受け、パネルディスカッションを行い、50年後も世界に誇れる瀬戸内をつくるため、協力していくことを確認した。

なお、記念式典に先立ち関係漁連・漁協連絡会議が行われた。「漁業に必要な海の栄養」と題して京都大学の藤原健紀名誉教授の講演をいただき、各県の取組状況や課題について意見を交換した。

当漁協は、ナルトビエイの駆除海底耕うんや堆積物の除去等の取組を報告した。栄養塩類については、研究機関の調査結果では過去の数字と変化は見られないが、ノリ養殖時期中は中津処理場において栄養塩処理による季節別管理運転を実施していることを報告した。

全国合同漁業共済組合 大分県事務所 運営委員長に鳴海盛彦氏就任

全国合同漁業共済組合大分県事務所の運営委員に鳴海盛彦氏(県漁協理事、上入津地区漁業運営委員長)が補欠選任され、運営委員長互選の結果、同氏が運営委員長に選定されました。鳴海委員長のもと、大分県事務所が益々ご発展されますよう、ご祈念いたします。



鳴海盛彦
新運営委員長

祝受章・表彰

長年のご功績により叙勲を受章され、あるいは功労者として表彰された皆様方に心から感謝し お祝いを申し上げます。

旭日単光章受章 桑原 政子氏



・平成16年に漁村女性グループ「めばる」を結成し、佐伯市鶴見で水揚げされる新鮮な水産物を用いた郷土料理「ごまだし」の開発や販売に取り組み、ごまだしの知名度向上や原料となるエソの価格向上など水産物の付加価値向上に貢献した。
・地域の子供達を対象とした魚料理教室の開催や、「ごまだし」を用いたレシピ集の発刊、各種料理コンテストでの受賞など、子供から大人まで幅広い世代への魚食普及に尽力した。
・漁村女性グループ「めばる」の活動は、漁村女性による起業家モデルケースとして全国的な評価を得て、農林水産業の女性が活躍できる社会の実現に貢献した。

大分県功労者表彰 渡辺 満晴氏



・漁業経営者として永年にわたりブリ・ヒラマサ生産などによる養殖業の振興と発展に尽力した。

漁協運動功労者表彰 大河 浅利 代表監事



・JFおおいた保戸島地区漁業運営委員長として地域漁業の発展に努め、県域の役員として大分県の水産業の発展に寄与した。

御 礼

アルプス処理水の海洋放出に係る漁業への影響に対し、佐伯鉄工業協同組合(野々下慎一理事長)様から過分なる見舞金を賜りました。ここに厚く御礼を申し上げます。



第8回理事会 厳しい仮決算状況に役員報酬カットも 新規加入及び資格変更時の出資金の増額を決定

21日、5年度の第8回理事会を開催した。

第1号議案「組合員の異動について」では、准組合員への新規加入9人、譲渡加入2人及び相続加入1人について、正組合員への新規加入1人、譲渡加入1人及び資格変更4人について承認した。なお、正組合員への資格変更1人については、操業の実態が不明であるとして支店に差し戻した。また、正組合員への新規加入4名については、顧問弁護士（資格審査委員長）協議が必要なことから、今回は議案に上程していない。

第2号議案「不良債権の処理方針について」では、貸出案件の理事会決議である総与信額40百万円超の者9者にかかる不良債権の処理方針について承認した。

第4号議案「出資金の増資等について」では、1新規加入時の出資金は①正組合員の場合10万円を35万円以上に変更し、②准組合員の場合5万円を15万円以上に変更すること、また2出資金の平準化の③准から正への資格変更は一律35万円以上とすることについて決定した。なお、①②③の実施時期、2出資金の平準化の④正組合員は3年以内に35万円以上とする、

⑤准組合員は3年以内に15万円以上とするに係る期間の制限は、各支店で協議の上第9回理事会に諮ることとした。

第5号議案「地区漁業運営委員の被選挙権定年について」では、各海区ごとの検討結果が示され、継続審議となった。協議報告事項では、①余裕金の運用状況報告、②令和5年度上半期・内部検査実施報告が行われた。

第5回JFマリンバンク大分県会議

第8回理事会に先立ち、第5回JFマリンバンク大分県会議を開催した。

今回は、まず令和5年度上期決算の報告について、事業ごと管理費目ごとの増減要因について説明し、早期指導計画の進捗を確認した。

また、令和5年度不良債権回収の取組については、各債務ごとに担当理事が状況を報告した。

組合員の出資状況については、新規加入時及び正組合員への資格変更時の出資金の増額については理事間で異論がないことを

確認し、追って実施した理事会における決定につながった。

その他、手数料の値上げについては、電気料、人件費等の原価の上昇に対応する方針を確認した。

第2回販売委員会

佐伯市公設水産地方卸売市場鶴見市場の整備について、市からこれまでの経緯と概要を聴き、卸売業者としての立場で協議した。

同市場は昭和51年に開設され45年以上が経過し、耐震性が無い区域がある。このため市は、令和2～3年度に葛港市場も含め

第21回 大分海区漁業調整委員会

13日、県水産会館5階研修室において第21回委員会が開催された。

第1号議案「宝石さん」の採捕禁止については、中国等での需要の高まりを受けて価格が高騰している宝石さんを対象とした採捕が行われれば、貴重な資源の減少や漁業調整上のトラブルの発生が懸念されることから水産庁の技術的助言に基づき隣県と協調して規制を強化するもの。当漁協も要請した委員会指示を发出し、採捕を禁止することに決した。

第2号議案「漁業権一斉切替えに伴う共同漁業及び定置漁業の免許について」は、漁業権一斉切替えに伴う共同漁業の免許申請79件及び定置漁業の免許申請1件について、漁業法

た公設2市場の在り方を検討し、鶴見市場は高度な衛生管理に对应できる産地市場として整備を進める方針を立てた。4年度には鶴見市場基本構想を策定し、現在は予算要求に向け基本計画を策定している。

問題は膨大な事業費を償還していくため、卸売業者として支払う市場使用料が現在より2割以

第70条の規定に基づき、大分県知事が委員会に意見を求められたもの。本年2月16日に開催された第16回委員会において免許の内容である海区漁場計画についての承認がなされている。原案のとおり決することに異議がない旨答申することに決した。

その他、「別府湾南部海域におけるまきえ船釣り等の承認について」では、別府湾南部海域におけるまきえ船釣り等の承認について、承認事務取扱要領第4により、令和5年5月20日～10月31日の間に25件承認し、第18回委員会時承認数（令和5年5月19日）317件と合わせ累計342件となったことが報告された。承認件数は年々減少する傾向にある。

上増えること。加えて高度な衛生管理に对应する閉鎖型市場となることから、現行職員数では対応が困難となること上げられる。

佐伯市は卸売業者である県漁協の同意を得て基本計画を策定し、事業を進めたいとしており、正式な要請があれば理事会での協議が必要になる。

正式な要請があれば理事会での協議が必要になる。

水 研 だ よ り

「おおいた海博」に参加しました！

11月4日、別府港第四埠頭隣接の多目的広場において第43回全国豊かな海づくり大会～おんせん県おおいた大会～1年前イベント「おおいた海博」が開催され、水産研究部及び北部水産グループも参加しました。

水産研究部は、埠頭建屋内の海博ラボにおいて、カタクチイワシを乾燥させたちりめん混じった他の魚の稚魚やエビなど(ちりめんモンスター(ちりモン))を探し出し、図鑑と照らし合わせて生き物を特定するちりモン探しを実施しました。このほか、360°全方位カメラを用いて撮影した海中の魚やクラゲの遊泳風景及び佐伯湾の雄大な空撮映像の視聴や、肉眼では決して見ることができない別府湾の海中に潜むプランクトンを、デジタル顕微鏡で観察してもらいました。

屋外テントでは、北部水産グループがタッチプールを実施し、子どもたちに国東半島の定置網に入網したハゼ、カワハギ、クサブグ、ヒトデなどを触って、楽しんでもらいました。また来年の全国大会で放流するマダイ、マコガレイ、北部水産グループで現在種苗生産しているキジハタ、マダコ、アサリ、カジメのほか、水産研究部で種苗生産しているブリ、ヒラメなどの水槽展示を行いました。

当日は天候にも恵まれ、たくさんの方が来場し、水産研究部・北部水産グループのブースもおおいに賑わい、イベントを盛り上げました。



ちりめんモンスター



デジタル顕微鏡観察



全方位カメラによる空撮映像



放流魚等の水槽展示



タッチプール

【▼第152号参照】
次代を担う子供たちが特産品に親しむことにより、地域の水産資源を守り、育てる契機となると期待される。

県漁協青年部香々地支部(大前優也支部長)は、地域の小中校生を対象に特産「岬ガザミ」の料理教室を行った。6日は香々地中、8日は三浦小、9日は香々地小を訪問。カニを締めて茹でる方法を教え、給食で味わった。
岬ガザミは県漁協が地域団体商標を持つ豊後高田を代表する水産物。近年水揚が減少していることから完全養殖を目指すプロジェクトも始動している。

岬ガザミの浜ゆでを体験！
香々地の小中校



11月8日は



国東さわら&別府湾の鯉フェア



- ・焼き物のイメージが強いサワラ、刺身の試食に「珍しい」、「脂がのってうまい！」と高評価！
- ・家庭では馴染みのないハモ、湯引きを試食し「初めて食べた」、「骨切りなら家でも調理できる」と強い関心！

県産魚の日PRイベント

10月27日は

「津久見フェア」

11月24日は

「漢麴ぶりフェア」

毎月第4金曜日の「県産魚の日」、おさかなランド恒例のPRイベントは10月に「津久見フェア」、11月に「漢麴ぶりフェア」を開催した。

「津久見フェア」には、県漁協津久見支店の市場に水揚げされたタチウオ、カマス、アジ、サバ、ブリ、モイカ、サザエなどの鮮魚が並び、多くのお客様で賑わった。対面販売コーナーには順番待ちの列もできた。

「漢麴ぶりフェア」では、上入津地区で養殖されている新ブランドブリ「漢麴ぶり」の試食と販売を行った。生産者が直接消費者にこだわりを説明し、高い評価が得られ、午前中に完売する勢いだった。



「漢麴ぶり」とは???

●物とは? 漢麴は、いちご焼酎などで有名な三和酒類株式会社の焼酎粕を原料として 株式会社桃太郎海苔が黒麹菌から「桃麴」を生産。

●漢麴ぶりの特徴 潮の流れが速い入津湾沖合養殖場で育てられたブリは身が引き締まり、さらに桃麴を餌と共に与えることで健康的な状態のブリを生産出来ています。血合いの発色は遅くて食べたなら美味しい、それが「漢麴ぶり」です。

●SDGsの取り組み 廃棄するはずの焼酎粕を活用して県内の企業が桃麴を作り、それを養殖ブリの餌として混ぜ与える。大切な資源を活用して新しいブランド魚を育てる取り組みがSDGsにつながっている。



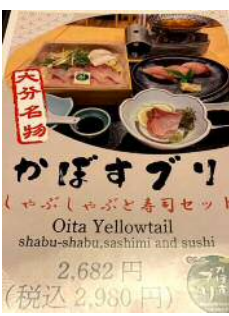
行列ができる別府の人気店」とよく「常」。人気ナンバー1がこれ、特上天井特盛(1310円)。大きなエビが3匹乗り、食べ応え満点。温泉巡りのあと本店では何度かいたいただいたが、今回は別府公園で紅葉を楽しんだあとと移動した駅前店を試してみた。

お昼時間前だったが名前を書いて待つこと10分。入店してメニューを見るとなんと「かぼすブリセット」もあるではないか！喜んで両方注文、大判薄切りのしゃぶしゃぶ、刺身、握り寿司がセットになって2980円。かなりコスパが高い。当然味にも満足したが、昼から満腹になった。

サカナをたべれば幸福が見えてくる

ウオメシ

特上天井とよ常



しっかりと充電したので、年末から年度末に向け、黒字決算を目指して頑張っていきたい。編集にご協力いただいた皆さんに感謝します。

厳しい仮決算見込みとなるなか、組織・業務の合理化や債権回収等を推進することは当然だが、組合員の増資や原価上昇に応じた負担増についても検討せざるを得ない。今年最後のウオメシは、別府公園まで「大人の遠足」に出かけ、とよ常でいただいた。「関あじ・関さば」があることは承知していたが、「かぼすブリセット」には感動し思わずお酒とともに注文した。帰りには祝祭の広場で「馬場子供神楽」を鑑賞。本店購買課主任の太鼓とちびっ子の舞を楽しんだ。

編集後記

昨年末の編集後記では1年を振り返り、地震や台風などの天災に加え、ウクライナ侵略に伴う燃油、飼料等の高騰が重なり、「本県水産業にとって本当に厳しい試練の年だった」と書いている。

思えば今年も災害の少ない年だったが、ALPS処理水の海洋放出に伴う中国による日本産水産物の輸入全面停止、中東での紛争の勃発による諸物価の高止まりに加え、会計監査人監査への移行やインボイスへの対応など、漁業者や漁協の経営を圧迫する状況は続いている。